

大学生の性役割態度研究——性役割に対する評価の観点から——

問題

●性役割態度について

性役割とは福富（1983）によれば「男性と女性を社会のなかで一つの地位としてとらえ、それぞれの性に対して社会が期待する態度や行動様式の総称を性役割と考える」ものとされており、これまで国内でも、性役割パーソナリティ（男性性・女性性・両性具有性）に関する研究や、性役割の発達、ジェンダー・アイデンティティ、性役割態度などに関する研究がなされてきた。（東・鈴木，1991）この中で、性役割態度とは 東・鈴木によれば、「性役割に対して一貫して好意的もしくは非好意的に反応する学習した傾向」とされ、性役割態度を測定する為の方法を開発する研究や、性役割態度の変化を調べる研究、性役割態度とデモグラフィックな変数との関連性の研究、性役割態度に関する比較文化研究などがなされてきた。この中の性役割態度を測定する為の方法については、主に心理尺度が用いられている。国内で開発された性役割態度を測定する尺度としては、性役割に対する伝統主義的—平等主義的態度を測定する「平等主義的性役割態度スケール（SESRA）」（鈴木，1987，1991）、またその短縮版である「平等主義的性役割態度スケール短縮版（SESRA-S）」（鈴木，1994a）、男女の平等観を測定する「性役割志向性尺度（ISRO）日本語版」（東，1990）、男性役割に対する態度におけるリベラル志向性と伝統志向性を測定する「脱男性役割態度スケール（SARLM）」（鈴木，1994b）、伝統的な男性役割規範に対する同意の程度を測定する「男性役割規範尺度（JMRNI）」（林，2005）などが存在する。これらの尺度で測定されている性役割態度は、ほとんどが性役割に対する平等主義的—伝統主義的の態度であり、伝統的な（家父長的な・性差別的な）性役割観を支持するか、それとも平等主義的な性役割観を支持するか調べるものである。しかし「性役割に対して一貫して好意的もしくは非好意的に反応する学習した傾向」という、東・鈴木の定義に基づけば性役割態度は必ずしも平等主義的—伝統主義的という次元のみで測定されるものではなく、むしろこの次元は性役割に対する反応のある1つの側面であると考えられる。

ところで性役割の発達モデル（柏木，1967，1974、鈴木，1997）によれば、青年期以降からは個人が属する社会における性役割規範を、無批判に受け入れ肯定するのではなく、自身にとって性役割がどのような意味を持つのが吟味し、性役割に対する独自の価値観を築いていくという様な、能動的側面が強まっていくとされる。つまり、比較的受動的に性役割を学習していく青年期以前の時期に比べ、性役割に対して能動的な意味付与を行う青年期以降の個人を対象に性役割態度を研究する際には、ある性役割規範に対する同意の是非を問うだけではなく、それが本人にとってどのような価値・意味を持つのかという、性役割に対する平等主義的—伝統主義的の態度以外の側面も考慮される必要があると考える。例えば性役割態度に関して、平等主義的—伝統主義的の態度とは異なる側面に着目した研究と

しては宇井・松井・福富（2001）によるものがあり、「性役割に対する不満」、「女性の自立への関心」に着目している。他に堀田（2000）による研究では、「性役割に対する関与度」に着目されている。しかしこれらの研究の様に、性役割態度に関して平等主義的—伝統主義的態度とは異なる側面に着目した研究は少なく、平等主義的—伝統主義的態度の次元とは異なる側面に着目した研究の蓄積が必要であると考ええる。また、個人にとって性役割特性（男性性・女性性）がどのような重要性を持つかという研究には、伊藤（1978a, 1981, 1986,）や伊藤・秋津（1983）が実施したものがある。しかしこれらは性役割特性が自分自身にとって、男性・女性一般にとって、社会一般において、どの程度重要であるか問うものであり、性役割という男女に関する規範の存在が個人にとってどのような意味を持つものであるか、という問いに対して部分的には答えるところはあるが、一致するものではないと思われる。したがって本研究では、性役割（特に規範としての性役割）に関して、平等主義的—伝統主義的態度の次元とは異なる側面に着目し、どのような観点が性役割態度の研究に際して有効であるのか、また、その観点が平等主義的—伝統主義的態度の次元と、どのような関連性があるのか明らかにすることを目的とする。今回は特に、大学生の規範としての性役割に対する意味・価値付けに着目することとし、これらを調べる為に、大学生の規範としての性役割に対する評価に焦点をあてることとする。

●目的

本研究の目的は、規範としての性役割に関して、平等主義的—伝統主義的態度の次元とは異なる側面に着目し、どのような観点が性役割態度の研究に際して有効であるのか、また、その観点が平等主義的—伝統主義的態度の次元と、どのような関連性があるのか明らかにすることであるため、大別すると2つの調査対象がある。1つが性役割に対する平等主義的—伝統主義的態度である。本研究で性役割に対する平等主義的—伝統主義的態度を測定する為に用いる尺度は、鈴木が東・鈴木の「性役割に対して一貫して好意的もしくは非好意的に反応する学習した傾向」の定義に基づき作成した、SESRA-S（平等主義的性役割態度スケール短縮版）である。SESRA-Sは尺度の信頼性・妥当性の検証がなされており、尺度得点の大小が、性役割に関する平等主義的—伝統主義的態度の次元と一致している為、解釈が比較的容易である為採用した。またSESRA-Sにおける性役割の範囲は、「結婚・男女観、教育観、職業観において、男女の平等を個人が家族の範囲内で達成することが可能な“個人レベルにおける”男女平等」に関するものとされており、「個人レベルにおける男女平等に関して、得点が高いほど性役割について平等主義的な態度を有し、低いほど伝統主義的な態度を有していることを」示す尺度である。2つ目が、性役割に関する平等主義的—伝統主義的態度の次元とは異なる側面である。本研究では平等主義的—伝統主義的態度の次元とは異なる側面に関して、規範としての性役割に関するテーマ・問題をどの様に捉えているのかという、規範としての性役割に対する評価に着目する。それは先に述べた様に、性役割の発達の水準からして、特に青年期以降は性役割に対する能動的解釈が強まる

傾向にあるということを考慮したことと、個人が性役割をどのようなものとして価値づけているのか、つまり規範としての性役割が個人にとってどのような意味を持つのかを明らかにすることにより、性役割に関する平等主義的—伝統主義的態度の次元が、どのような意識に支えられて成り立っているのか明らかにできると考えたからである。また性役割態度に関して、規範としての性役割が個人にとってどのような意味を持つのかという視点の、性役割態度の研究における有用性を示す事で、今後の性役割態度研究に対する可能性を呈示することができると考えた為である。調査対象は、個人にとっての性役割の持つ意味に着目するにあたり、思考能力が十分に発達し、自身にとって性役割がどのような意味を持つか十分に考えられる水準にある大学生とする。

以上を踏まえ、本研究は大学生を対象とし、規範としての性役割に関して平等主義的—伝統主義的態度の次元とは異なる側面に着目し、どのような観点が性役割態度の研究に際して有効であるのか、また、その観点が平等主義的—伝統主義的態度の次元と、どのような関連性があるのか明らかにすることを目的とする。

方法

●調査方法

調査は質問紙を用いて実施された。質問紙調査は 2013 年 12 月に、都内の大学の心理学系の教養の授業の時間を借りて行われた。調査対象者は、授業に参加していた大学生（男女）であり、回収できた質問紙は 124 部であった。回答者の年齢は 18 歳から 27 歳で、平均値 19.23 歳、標準偏差 0.857 であった。また性別はそれぞれ男性 46 名、女性 77 名で、無回答が 1 名であった。入手できた質問紙の中で性別の記入が無かったもの以外にも、他の項目に対する回答に不備があったケースがあったが、分析に応じて採用するか、しないかを決めた為、性別の回答の無かった 1 ケースを除いた 123 ケースの扱いは、それぞれの分析に準じた。また、ケースの採用・不採用に関しては、結果に記載した。分析に用いたソフトウェアは、(SPSS19.00) であった。

●質問紙の構成

調査に使用した質問紙は、以下の 4 つの部分で構成されていた。

1. フェイスシート、年齢、性別を問うもの。
2. SESRA-S（平等主義的性役割態度スケール短縮版）（15 項目）。
3. 筆者が作成した、SESRA-S の 15 項目の質問文それぞれに対する評価を問う質問 5 種類。（以下サブクエスチョンとする。）
4. 男女の扱いについての不満、男女の平等についての意見、実施した質問紙に対する感想を、自由記述で回答を求めるもの（計 3 つ）。（以下自由記述とする。）

2 の SESRA-S の尺度項目は以下の 15 項目である。1) 経済的に不自由でなければ、女性は働かなくてもよい、2) 主婦が働くとき夫をないがしろにしがちで、夫婦関係にひびが入り

やすい、3) 家事は男女の共同作業となるべきである、4) 主婦が仕事を持つと、家族の負担が重くなるのでよくない、5) 子育ては女性にとって一番大切なキャリアである、6) 女性の人生において、妻であり母であることも大事だが、仕事をするのもそれと同じくらい重要である、7) 娘は将来主婦に、息子は職業人になることを想定して育てるべきである、8) 女性は家事や育児をしなければならないから、フルタイムで働くよりパートタイムで働いた方がよい、9) 結婚生活の重要事項は夫が決めるべきである、10) 結婚後、妻は必ずしも夫の姓を名乗る必要はなく、旧姓で通してもよい、11) 女性が社会的地位や賃金の高い職業を持つと結婚するのがむずかしくなるから、そういう職業を持たない方がよい、12) 女性は家事や育児をしなければならないから、あまり責任の重い、競争の激しい仕事をしないほうがよい、13) 女性の居るべき場所は家庭であり、男性の居るべき場所は職場である、14) 女性は子どもが生まれても、仕事を続けたほうがよい、15) 男の子は男らしく、女の子は女らしく育てることが非常に大切である。これら 15 項目に対し、(1) 非常にそう思う、(2) まあそう思う、(3) どちらともいえない、(4) あまりそう思わない、(5) 全くそう思わない、の 5 件法で回答を求めた。

3 の SESRA-S の質問文に対する評価を問う質問は、それぞれ次の 5 つである。①「この問題は私にとって重要だと思う。」(サブクエスチョン 1)、②「私はこの問題について、明確な意見を持っていると思う。」(サブクエスチョン 2)、③「私はこの問題に対する意見を、時と場合で変えると思う。」(サブクエスチョン 3)、④「この問題に対して、他の人が自分と異なる意見を持っていたとしてもいいと思う。」(サブクエスチョン 4)、⑤「私はこの問題に対して関心が薄いと思う。」(サブクエスチョン 5)。これらの質問を設けた理由は、性役割に対する平等主義的—伝統主義的態度以外の、規範としての性役割に対する評価を調査する為であった。具体的には SESRA-S の中で定義されている、規範としての性役割に関する問題(例：経済的に不自由でなければ、女性は働かなくてもよい)を、人はどの程度重要視しているのかに焦点を当てるといふ、「性役割規範というテーマをどの程度重要視するかについて評価」を調べるもの。同様に、「性役割規範というテーマに関して示す、自身の意見の明確さの程度の評価」、「性役割規範というテーマに関して示す、自身の意見の一貫性の程度の評価」、「性役割規範というテーマに関する、他者の異なる意見の許容の程度の評価」、「性役割規範というテーマに関する、自身の関心の強さの程度の評価」を調べることを意図したものである。これら 5 つの質問項目に対して、(1. とてもそう思う、2. まあそう思う、3. あまりそう思わない、4. ほとんどそう思わない) の 4 件法で回答を求めた。以上 5 つの質問文は筆者が独自に作成した。これらのサブクエスチョンが SESRA-S の質問文 15 項目それぞれについて設けられ、回答者に 15 (SESRA-S の項目数) × 5 (5 種類の質問) = 計 75 個のサブクエスチョンに回答することを求めた。

4 の自由記述は、合計 3 つの質問があり、それぞれ①「男女の扱いの違いに不満を感じたこと、引っかかったことについて、具体的なエピソードを書いてください。まだ、なぜそう思ったのか、その時どう思ったのかについても書いてください。」(自由記述不満)、②「以

下のトピックについての意見、もしくは男女の平等にかかわることについての意見を書いてください。（男女雇用機会均等法、女性専用車両、男女による役割の分担、など）」（自由記述意見）、③「本調査に回答してみて、思ったこと、感じた事について書いてください。」（自由記述自由）であった。これらの質問は、サブクエスションと同様に、性役割態度の一側面であり、性役割態度尺度で測定される、伝統主義的か平等主義的という態度以外の規範としての性役割に対する評価を調査する目的で、筆者が独自に作成した。それぞれの質問の意図は次の様なものである。自由記述不満（「男女の扱いの違いに不満を感じたこと、引かなかったことについて、具体的なエピソードを書いてください。まだ、なぜそう思ったのか、その時どう思ったのかについても書いてください。」）：性役割に関するテーマに対する不満感、違和感といった評価を調査することを目的とした。自由記述の形態を採った理由は、SESRA-S 内の性役割に関するテーマの各質問文が、女性が主体となるものが多く感じた為、不満に関する回答をするにあたり、男性には困難であると考えたからである。自由記述意見{「以下のトピックについての意見、もしくは男女の平等にかかわることについての意見を書いてください。（男女雇用機会均等法、女性専用車両、男女による役割の分担、など）」}：性役割に関するテーマに対する、広範な意見を調査する為に設けた。質問に具体的なテーマを設けたのは、男女平等について考えるきっかけを与える為である。自由記述自由（「本調査に回答してみて、思ったこと、感じた事について書いてください。」）：性役割に対する広範な意見を調べる為、また、本調査の結果の考察の参考にする為に設けた。決まったテーマを設けずに問う事で、他の質問では出てこない意見を調査する為である。尚、自由記述の分析方法は結果と併せて記載する。

● 教示

質問紙実施前に次のような研究の内容の説明、教示を実施した。本研究が筆者の修士論文に関する研究であること、調査する内容は大学生の社会規範に対する捉え方を調べるものであること、本研究への協力は義務ではないこと、匿名性に配慮したデータの処理を行うことを伝えた後、実施した質問紙の構成、回答の仕方等の説明を行った。尚、使用した質問紙は巻末の資料に添付した。

結果

● SESRA-S（平等主義的性役割態度スケール短縮版）

分析にあたり、回答に不備のあった 5 ケースと、性別の回答が無かった 1 ケースを除いた 118 ケースを対象に分析を行った。はじめに SESRA-S の尺度得点におけるクロンバックの α 係数を求めたところ.836 であった。したがって尺度得点の解釈は鈴木（1991）と同様に、「個人レベルにおける男女平等に関して、得点が高いほど性役割について平等主義的な態度を有し、低いほど伝統主義的な態度を有していることを」示しているものとして解釈を行うこととした。

次に、SESRA-S の項目の得点に逆転処理を施し、ケースごとに合計したものを、SESRA-S の尺度得点とした。尺度得点に関する記述統計は、平均値 54.88、標準偏差 9.213、分散 84.875 であった。男女別に見ると、男性群は、度数 46、平均値 51.61、標準偏差 10.26、分散 105.44 で、女性群は、度数 72、平均値 56.97、分散 61.66 であった。(表 1) SESRA-S の尺度得点に関して男女の群の平均値の検定を行った所、 $t(78.01)=3.02, p<.01$ で、女性の尺度得点の平均値の方が男性の尺度得点の平均値よりも高かった。すなわち、対象とした大学生においては、平均的に女性の方が男性よりも平等主義的な態度を示す傾向が強かった事が統計的に支持された。

表 1
SESRA-S 尺度得点の記述統計

SESRA-S 尺度得点	度数	平均値	標準偏差	分散
全体	118	54.88	9.21	84.88
男性	46	51.61	10.26	105.44
女性	72	56.97	7.85	61.66

サンプル内で相対的に尺度得点の高い群、中程度の群、低い群それぞれの、すなわち、サンプル内で相対的に性役割に対して平等主義的な態度を示す群、伝統主義的な態度を示す群、そしてその中間の群の、サブクエスチョンや自由記述における回答の違いを調べる為に、118 ケースを、尺度得点を元に尺度得点高群 (以下高群)、尺度得点中群 (以下中群)、尺度得点低群 (以下低群) に分割した。分割の仕方はパーセンタイル順位を基準にし、低群と中群との境を 25 パーセンタイル (第 1 四分位数) : 49.00 (点) とし、中群と高群との境を 75 パーセンタイル (第 3 四分位数) : 61.00 (点) として、それぞれ、1 パーセンタイル \leq 低群 < 26 パーセンタイル、26 パーセンタイル \leq 中群 \leq 74 パーセンタイル、74 パーセンタイル < 高群 \leq 100 パーセンタイルに該当するケースをそれぞれの群に割り振った。それぞれの群の度数は低群 31 ケース、26.3%、中群 52 ケース、44.1%、高群 35 ケース、29.7% であった。

●サブクエスチョン

初めに、分析にあたり①「この問題は私にとって重要だと思う。」、②「私はこの問題について、明確な意見を持っていると思う。」、③「私はこの問題に対する意見を、時と場合で変えると思う。」、④「この問題に対して、他の人が自分と異なる意見を持っていたとしてもいいと思う。」、⑤「私はこの問題に対して関心が薄いと思う。」のそれぞれ評定値 (1. とてもそう思う、2. まあそう思う、3. あまりそう思わない、4. ほとんどそう思わない) を

逆転し、(4. とてもそう思う、3. まあそう思う、2. あまりそう思わない、1. ほとんどそう思わない)とし、これら各サブクエスションの合計値をケースごとに算出した。つまりケースごとに、SESRA-S15 項目分のサブクエスション 1 の合計値、同様に SESRA-S15 項目に対する、それぞれサブクエスション 2 の合計値、サブクエスション 3 の合計値、サブクエスション 4 の合計値、サブクエスション 5 の合計値と求めた。(それぞれの合計値が取りうる範囲は、評定値がすべて 1 の 15 点から、評定値がすべて 5 の 60 点である。)また、欠損値のあるケースの採用に関しては、サブクエスション単位で判断し、各ケースに関してそれぞれのサブクエスションごとに欠損値があるものを単独で不採用とした為、サブクエスションごとに度数が多少異なっている。次にサブクエスション 1 の合計値からサブクエスション 5 の合計値それぞれの記述統計を示す。サブクエスション 1 : 度数 117、平均値 41.82、中央値 42.00、標準偏差 8.59、分散 73.79、最小 15、最大 60、サブクエスション 2 : 度数 113、平均値 40.43、中央値 39.00、標準偏差 8.19、分散 67.11、最小 18、最大値 60、サブクエスション 3 : 度数 113、平均値 36.86、中央値 37.0、標準偏差 9.40、分散 88.34、最小 15、最大 60、サブクエスション 4 : 度数 115、平均値 48.66、中央値 47.00、標準偏差 8.81、分散 77.6、最小 15、最大 60、サブクエスション 5 : 度数 115、平均 33.66、中央値 34.00、標準偏差 8.371、分散 70.07、最小 15、最大 58 であった。(表 2)

次に、サブクエスションの合計値の解釈の為に、因子分析(重み付けの無い最小二乗法・斜行回転)を行った。対象は、サブクエスション 1 の合計値からサブクエスション 5 の合計値であった。初めに、サブクエスションの合計値間の相関係数を求めた。それぞれ有意であった組み合わせは次のとおりである。サブクエスション 1 とサブクエスション 2 : .586 ($p < .001$)、サブクエスション 1 とサブクエスション 5 : -.812 ($p < .001$)、サブクエスション 2 とサブクエスション 5 : -.513($p < .001$)、サブクエスション 2 とサブクエスション 3 : -.262($p < .01$)、サブクエスション 3 とサブクエスション 4 : .370($p < .001$)、サブクエスション 4 とサブクエスション 5 : .196($p < .05$)、であった。(表 3)

表 2
サブクエスチョン 1 から 5 までの、それぞれの合計値の記述統計

	度数	平均値	中央値	標準偏差	分散	最小	最大
サブクエスチョン 1	117.00	41.82	42.00	8.59	73.79	15.00	60.00
サブクエスチョン 2	113.00	40.43	39.00	8.19	67.11	18.00	60.00
サブクエスチョン 3	113.00	36.86	37.00	9.40	88.34	15.00	60.00
サブクエスチョン 4	115.00	48.66	47.00	8.81	77.60	15.00	60.00
サブクエスチョン 5	115.00	33.66	34.00	8.37	70.07	15.00	58.00

表 3
サブクエスチョン同士の相関係数

相関係数	サブクエ スチョン 1	サブクエ スチョン 2	サブクエ スチョン 3	サブクエ スチョン 4	サブクエ スチョン 5	重要さ得 点
サブクエスチョン 1		.586***	-.046	-.0127	-.812***	.915***
サブクエスチョン 2			-.262**	-.118	-.513***	.787***
サブクエスチョン 3				.370***	-.162	-.202*
サブクエスチョン 4					.196*	-.144
サブクエスチョン 5						-.900***

重要さ得点

注：アスタリスクの数によって有意水準が異なる。*… $p < .05$ 、**… $p < .01$ 、***… $p < .001$ である。

次に、サブクエスチョン 1 から 5 の合計値に対して行った因子分析（重み付けの無い最小二乗法・斜行回転）の結果を示す。また、スクリープロットは図 1 のようになっており、因子の採択の基準として、固有値 1 以上の因子を選択したところ、2 つの因子が抽出された。これら採用した 2 つの因子の因子負荷量はそれぞれ次のようになっていた。サブクエスチョン 1：因子 1 .960、因子 2 .084、サブクエスチョン 2：因子 1 .589、因子 2 -.163、サ

サブクエスチョン 3：因子 1 .017、因子 2 1.003、サブクエスチョン 4：因子 1 -.126、因子 2 .341、サブクエスチョン 5：因子 1 -.863、因子 2 .047。(表 4)

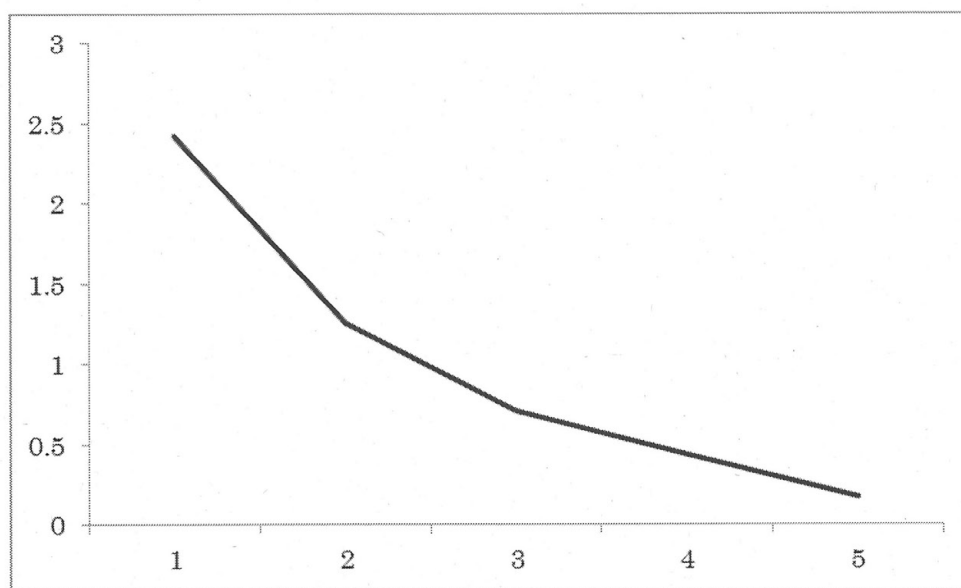


図 1. サブクエスチョン合計値 1 から 5 のスクリープロット。

表 4

因子 1、2 の因子負荷量

	因子	
	1	2
サブクエスチョン 1 合計値	0.960	-0.057
サブクエスチョン 2 合計値	0.589	-0.163
サブクエスチョン 3 合計値	0.017	1.003
サブクエスチョン 4 合計値	-0.126	0.341
サブクエスチョン 5 合計値	-0.863	0.047

相関係数と因子負荷量の結果から、サブクエスチョン 1、2、5 に強く負荷している因子 1 を、「重要さ因子」として名付けた。そこで、この因子に対応する得点を設ける為に、因子負荷がマイナスのサブクエスチョン 5 の評定値を逆転（1. とてもそう思う、2. まあそう思う、3. あまりそう思わない、4. ほとんどそう思わない）し、サブクエスチョン 1、2

の合計値と足し合わせた。こうして出来た、サブクエスチョン 1 の合計値、サブクエスチョン 2 の合計値、逆転処理をしたサブクエスチョン 5 の合計値の合計値を、重要さ得点とした。重要さ得点の解釈は、それぞれのサブクエスチョンの因子負荷の値に基づき、「得点が高いほど性役割規範に関するテーマを自分にとって重要視しており、得点が高いほど性役割規範に関するテーマに関心が薄い」こととして行うことにした。また、重要さ得点に関する記述統計は次の様になった。重要さ得点：度数 111、平均値 124.10、中央値 123.00、標準偏差 21.53、分散 463.65、最小 58、最大 180（取りうる最小値は 45、取りうる最大値は 180）であった。尚、重要さ得点内におけるクロンバックの α 係数は.879 であった。（表 5）さらに、重要さ得点と、サブクエスチョン 1 から 5 までの合計値との間の相関係数で有意であったものは、サブクエスチョン 1 と重要さ得点：.915($p<.001$)、サブクエスチョン 2 と重要さ得点：.787($p<.001$)、サブクエスチョン 5 と重要さ得点：-.900($p<.001$)であった。（表 3）

表 5
重要さ得点の記述統計

	度数	平均値	中央値	標準偏差	分散	最小	最大
重要さ得点	111	124.10	123.00	21.53	463.65	58.00	180.00

重要さ得点に関しても、SESRA-S の尺度得点と同様に、他の変数との関係性を調べる為に得点の大小に基づき群分けを行った。手法は SESRA-S の尺度得点と同様に、尺度得点高群（以下高群）、尺度得点中群（以下中群）、尺度得点低群（以下低群）に分割した。分割の仕方も同様に、パーセンタイル順位を基準にし、低群と中群との境を 25 パーセンタイル（第 1 四分位数）：114 とし、中群と高群との境を 75 パーセンタイル（第 3 四分位数）：134 とし、それぞれ、1 パーセンタイル \leq 低群 < 26 パーセンタイル、26 パーセンタイル \leq 中群 \leq 74 パーセンタイル、74 パーセンタイル < 高群 \leq 100 パーセンタイルに該当するケースをそれぞれの群に割り振った。それぞれの群の度数は低群：28 ケース、25.7%、中群：54 ケース、49.5%、高群：ケース 27、24.8%であった。サブクエスチョン 3、4 の合計値に関しては、他のサブクエスチョンとの相関係数、因子負荷の結果から、それぞれ独立に分析をすることにした。

最後に、重要さ得点（サブクエスチョン 1、2、5 逆転値）、サブクエスチョン 3 の合計値、サブクエスチョン 4 の合計値の男女別得点の平均値を比較した結果を述べる。重要さ得点は $t(92.15)=2.556, p<.05$ で、女性の重要さ得点の平均値（128.12 標準偏差 21.341）が、男性の重要さ得点の平均値（117.74 標準偏差 20.502）よりも統計的に有意に高かった。したがって、対象とした大学生内において、女性の方が男性よりも、性役割規範の重要さを平均的に高く評価し、男性の方が女性よりも、性役割規範に対して関心が薄いと評価し

たことを支持する結果となった。一方、サブクエスチョン 3, 4 の合計値の男女の平均値差は有意ではなかった(サブクエスチョン 3:男性 平均値 37.86 標準偏差 10.886、女性 平均値 36.24 標準偏差 8.381、サブクエスチョン 4:男性 平均値 48.68 標準偏差 10.313、女性 平均値 48.65 標準偏差 7.814)。

●SESRA-S とサブクエスチョン

初めに、SESRA-S の尺度得点とサブクエスチョン 1 から 5 までの合計値、重要さ得点との相関係数を示す。有意であった組み合わせは、サブクエスチョン 2 : .304 ($p<.001$)、重要さ得点 : .249 ($p<.01$) の 2 つであった。(表 6)

表 6
SESRA-S 尺度得点とサブクエスチョンの相関係数

	サブクエ スチョン 1	サブクエ スチョン 2	サブクエ スチョン 3	サブクエ スチョン 4	サブクエ スチョン 5	重要さ得 点
SESRA-S 尺度得点	0.104	0.304***	-0.184	0.019	-0.131	0.249**

注：アスタリスクの数によって有意水準が異なる。*... $p<.05$ 、**... $p<.01$ 、***... $p<.001$ である。

次に、SESRA-S の尺度得点の男女別の高群・中群・低群のケース数と、重要さ得点の男女別の高群・中群・低群のケース数は次の様になっていた。SESRA-S 尺度得点（男性：高群 9 ケース 20.9%、中群 17 ケース 39.5%、低群 17 ケース 39.5%、女性：高群 25 ケース 37.9%、中群 30 ケース 45.5%、低群 11 ケース 16.7%）であり、重要さ得点（男性：高群 4 ケース 11.1%、中群 22 ケース 66.7%、低群 17 ケース 39.5%、女性：高群 23 ケース 34.8%、中群 32 ケース 48.5%、低群 11 ケース 16.7%）であった。(表 7) 男女別に結果を見ると、男性は全体、女性群に比べ SESRA-S の尺度得点の群、重要さ得点の群、共に高群が少なく、低群が多かった。一方で女性は全体、男性群に比べ SESRA-S の尺度得点の群、重要さ得点の群、共に高群が多く、低群が少なかった。

表 7
SESRA-S 尺度得点と、重要さ得点の群分け内ケース数

		全体		男性		女性	
SESRA-S 尺度得点	高群	34	31.2%	9	20.9%	25	37.9%
	中群	47	43.1%	17	39.5%	30	45.5%
	低群	28	25.7%	17	39.5%	11	16.7%
重要さ得点	高群	27	24.8%	4	9.3%	23	34.8%
	中群	54	49.5%	22	51.2%	32	48.5%
	低群	28	25.7%	17	39.5%	11	16.7%

SESRA-S の尺度得点と重要さ得点の高低で分けた 3 群をクロスさせ、SESRA-S 尺度得点高群×重要さ得点高群から、SESRA-S 尺度得点低群×重要さ得点低群までの 9 群を設け、ケースを 9 つの群に割り振った。内訳は次のとおりであった。SESRA-S 高群×重要さ高群：17 ケース 50.0%、SESRA-S 高群×重要さ中群：15 ケース 44.10%、SESRA-S 高群×重要さ低群：2 ケース 5.9%、SESRA-S 中群×重要さ高群：6 ケース 12.8%、SESRA-S 中群×重要さ中群：28 ケース 59.6%、SESRA-S 中群×重要さ低群：13 ケース 27.7%、SESRA-S 低群×重要さ高群：4 ケース 14.3%、SESRA-S 低群×重要さ中群：11 ケース 39.3%、SESRA-S 低群×重要さ低群：13 ケース 46.4%であり、それぞれのケース数の後ろの%は、SESRA-S の尺度得点群を基準にした時の、その群内での重要さ得点の群のケース数の割合（例；SESRA-S 低群の中に、重要さ高群・中群・低群はそれぞれ何%ずついるのか。）を示している。（表 8）これを男女別で見ると次のような結果となった。男性は、SESRA-S 高群×重要さ高群：1 ケース 11.1%、SESRA-S 高群×重要さ中群：6 ケース 66.7%、SESRA-S 高群×重要さ低群：2 ケース 22.2%、SESRA-S 中群×重要さ高群：0 ケース 0%、SESRA-S 中群×重要さ中群：8 ケース 47.1%、SESRA-S 中群×重要さ低群：9 ケース 52.9%、SESRA-S 低群×重要さ高群：3 ケース 17.6%、SESRA-S 低群×重要さ中群：8 ケース 47.1%、SESRA-S 低群×重要さ低群：6 ケース 35.3%となった。（表 9）女性は、SESRA-S 高群×重要さ高群：16 ケース 64.0%、SESRA-S 高群×重要さ中群：9 ケース 36.0%、SESRA-S 高群×重要さ低群：0 ケース 0.0%、SESRA-S 中群×重要さ高群：6 ケース 20.0%、SESRA-S 中群×重要さ中群：20 ケース 66.7%、SESRA-S 中群×重要さ低群：4 ケース 13.3%、SESRA-S 低群×重要さ高群：1 ケース

9.1%、SESRA-S 低群×重要さ中群：3 ケース 27.3%、SESRA-S 低群×重要さ低群：7 ケース 63.6%となった。(表 10)

表 8

SESRA-S 尺度得点群（高・中・低）と重要さ得点群（高・中・低）の組み合わせ

SESRA-S 尺度得点 群		重要さ得点群			合計
		低群	中群	高群	
低群	度数	13	11	4	28
	SESRA-S 尺度得点低群 内%	46.4%	39.3%	14.3%	
中群	度数	13	28	6	47
	SESRA-S 尺度得点中群 内%	27.7%	59.6%	12.8%	
高群	度数	2	15	17	34
	SESRA-S 尺度得点高群 内%	5.9%	44.1%	50.0%	
合計	度数	28	54	27	109
	重要さ得点群内における割 合	25.7%	49.5%	24.8%	100.0%

表 9

男性のみ SESRA-S 尺度得点群（高・中・低）と重要さ得点群（高・中・低）の組み合わせ

SESRA-S 尺度得点 群		重要さ得点群			合計
		低群	中群	高群	
低群	度数	6	8	3	17
	SESRA-S 尺度得点低群 内%	35.3%	47.1%	17.6%	
中群	度数	9	8	0	17
	SESRA-S 尺度得点中群 内%	52.9%	47.1%	0.0%	
高群	度数	2	6	1	9
	SESRA-S 尺度得点高群 内%	22.2%	66.7%	11.1%	
合計	度数	17	22	4	43
	重要さ得点群内における割 合	39.5%	51.2%	9.3%	100.0%

表 10

女性のみ SESRA-S 尺度得点群（高・中・低）と重要さ得点群（高・中・低）の組み合わせ

SESRA-S 尺度得点 群		重要さ得点群			合計
		低群	中群	高群	
低群	度数	7	3	1	11
	SESRA-S 尺度得点低群 内%	63.6%	27.3%	9.1%	
中群	度数	4	20	6	30
	SESRA-S 尺度得点中群 内%	13.3%	66.7%	20.0%	
高群	度数	0	9	16	25
	SESRA-S 尺度得点高群 内%	0.0%	36.0%	64.0%	
合計	度数	11	32	23	66
	重要さ得点群内における割 合	16.7%	48.5%	34.8%	100.0%

以上の結果より、サンプル全体で見ると、SESRA-S 尺度得点低群の中に、重要さ得点低群が 46.40%、重要さ得点中群が 39.30%おり、両群合計して 85.71%であったことから、サンプル内において、相対的に性役割に対して伝統主義的な態度を取る大学生は、性役割規範に対して比較的に関心が薄いと評価する傾向にあった。SESRA-S 尺度得点中群の中に、重要さ得点中群が 59.60%おり、半数以上であったことから同様に、サンプル内において、相対的に性役割に対して、得点上伝統主義的な態度と平等主義的な態度の中間的な態度を取る大学生は、性役割規範の重要性を他の群に比べて中程度に評価する傾向にあった。SESRA-S 尺度得点高群の中に、重要さ得点中群が 44.10%、重要さ得点高群が 50.00%おり、両群合計して 94.11%であったことから、同様にサンプル内において、相対的に性役割に対して平等主義的な態度を取る大学生は、比較的性役割規範に対して重要だと評価する

傾向にあった。男女別で見ると、男性の場合は全体、女性群と比べると SESRA-S の尺度得点の群、重要さ得点の群、共に高群が少なく、低群が多かった為か、両組み合わせとも低群が多い傾向となった。また、SESRA-S の尺度得点のいずれの群においても、およそ半数を重要さ得点中群が占めて (SESRA-S 低群 47.1%、中群 47.1%、高群 66.7%) おり、残りの殆どを重要さ得点低群が占めて (SESRA-S 低群 35.3%、中群 52.9%、高群 22.2%) いることから、対象とした大学生の男性においては、SESRA-S の尺度得点と重要さ得点との間の関連性は弱い傾向が示された。一方女性の場合はサンプル全体で見られた様な、サンプル内において相対的に性役割に対して伝統主義的な態度を取る大学生は、性役割規範に対して比較的に関心が薄いと評価する傾向、相対的に性役割に対して、得点上伝統主義的な態度と平等主義的な態度の中間的な態度を取る大学生は、性役割規範の重要性を他の群に比べて中程度に評価する傾向、相対的に性役割規範に対して平等主義的な態度を取る大学生は、比較的に性役割に対して重要だと評価する傾向がより顕著であった。したがって、女性は男性とは異なり、もしくは男性と比べて、SESRA-S の尺度得点と、重要さ得点との間の関連性が高い傾向が示された。実際、男女別に SESRA-S の尺度得点と重要さ得点との間の相関係数を算出してみたところ、男性：-.309 ($p<.05$) で、女性：.613 ($p<.001$) であったことから、相関係数の値からもこの傾向が支持された。

●自由記述

SESRA-S への回答に不備があるケース、サブクエスチョンへの回答に不備があるケースの中にも、自由記述の欄に記述があったケースがあったことから、自由記述の分析においては、基本的には性別の欄に不備のあった 1 ケースを除いた 123 ケースを分析の対象とした。それぞれの質問に対する回答の有無は、①自由記述不満 (「男女の扱いの違いに不満を感じたこと、引っかかったことについて、具体的なエピソードを書いてください。また、なぜそう思ったのか、その時どう思ったのかについても書いてください。」): 記述有り (54 ケース 43.90%)、②自由記述意見{「以下のトピックについての意見、もしくは男女の平等にかかわることについての意見を書いてください。(男女雇用機会均等法、女性専用車両、男女による役割の分担、など)」}: 記述有り (73 ケース 59.35%)、③自由記述自由 (「本調査に回答してみて、思ったこと、感じた事について書いてください。」): 記述有り (52 ケース 42.28%)、であった。また、「特になし。」といった、回答が無い事を示す記述も、記述が無かったことに含めた。男女別に見ると、男性: ①自由記述不満 (21 ケース 45.65%)、②自由記述意見 (24 ケース 52.17%)、③自由記述自由 (21 ケース 45.65%) であり、女性: ①自由記述不満 (33 ケース 42.86%)、②自由記述意見 (49 ケース 63.64%)、③自由記述自由 (32 ケース 41.56%) であり、男女共に概ね半数のケースが記述をしていた。(表 11)

表 11

それぞれの解答欄における、自由記述の回答ケース数と回答率

自由記述回答欄	合計	男性	女性
不満 回答ケース数	54	21	33
回答ケース割合	43.90%	45.65%	42.86%
意見 回答ケース数	73	24	49
回答ケース割合	59.35%	52.17%	63.64%
自由 回答ケース数	52	21	32
回答ケース割合	42.28%	45.65%	41.56%

自由記述の回答内容については、性役割に関するテーマに対する不満感、違和感といった意識や、その他性役割に対する広範な意識を調べる為に設けたが、今回は対象とした大学生が性役割をどの様に捉えているのか、記述内容から推測する為に用いることとする。したがって、今回の質問紙研究で得られた自由記述の内容の概要を示し、総合考察にてその記述内容に考察を加えることとする。

①男女によって扱いが異なることに対して不満に思った経験の報告が複数見られた（例 1：グループワークなどで女は何もしていてもあまり文句を言われませんが、男は文句を言われることが多い 例 2：映画館で特定の曜日に女性だけ割引がきき、不平等だと思った。例 3：親によるしほりつけが男の場合はゆるく、女の場合はきついと思う。（帰宅時間など 例 4：男女平等というなら、女性専用車両だけ作るのは男性への差別だと思う。 例 5：男女平等が意識されているが、やはり重職には男性の方が多くのこと。）。)

②性別役割分業についての否定的意見が複数見られた（例 1：まだいまだに男は仕事、女は家庭を守る、という考えが根付いている人がいることがおかしいと思う。男だから～女だから～何かしなくてはいけない、というのは絶対におかしい。 例 2：男は仕事、女は家事なんて古い考え方だ。これからはもっと自由な形の家庭が増えてくれることを願う。例 3：男だから家計を養うとか、女だから家事をしなければならいという少し昔の考え方について、自由の無さを感じた。 例 4：…“女の人家庭を守り、男が働く”みたいな考えは、女の人やりたいことや夢を追う機会を奪うことになると思います。 例 5：女の人だから、家庭をまもらなければいけない（主婦）家にずっといる生活をする必要があるというのは納得がいきません。自分も将来やりたい仕事があるからです。）。)

③男性・女性の両性の違いをポジティブであれネガティブであれ（部分的に）認める意見が複数見られた。特に生理・身体的特徴に基づく違いを強調したものが見られた。（例 1：雇用機会は均等にしていきたいですが、体力面など、身体的面や精神的面で、女性は男性に劣ると思うので、女性専用車両や役割分担は男女で均等にしないでいいと思う。 例

2：男女の能力差は力仕事の点などで必ずでてしまうものだと思うので、ある場面で男女による役割の分担があっても仕方ないと思う。例3：男女による役割分担については、あらかじめ性差によって全て決め付けてしまうことはおかしいと思うが、男性にしかできないこと、女性にしかできないことを活かすのはとても大事なことだと思う。例4：男女平等ということはないし、しなくていいと思う。女性を下に見られるのは嫌だけど、男性と女性ではできることが違うのだから、それぞれの特徴を生かした社会をつくるのが良いと思う。例5：男女の平等は大事だと思うが、男女の身体能力の差は考慮すべきだと思う。).

次に、男女別の回答の特徴を示す。女性の傾向：男女で扱いが異なることや、性役割に基づく不満に関する記述の内容に、具体的なものが多かった(例1：母親に女の子なんだから料理やお皿洗いを手伝ってと言われた…お兄ちゃんには言わないで私だけにいうのはおかしいと思った。例2：昔、演劇の練習をやっていたとき、女だからという理由であぶないアクションを止められた。例3：「女だから」「女はすぐ泣く」のように決めつけられたこと。初めから一般的枠におしこめられて腹が立ちました。…個人としての私よりも、性別としての私で頼りないときめつけられたこと。…女だからあてにならないというような扱いは不平等だと思いました。例4：バイト中にガチャガチャのフタがあかないときに男性スタッフを呼ぶようにお客様に言われたこと。実際自分であけた。例5：頭がいい女の子を「女じゃないレベルで頭がいい」といった男子がいた。女は頭が悪いと何故思うのかわからなかったし、私はその人より勉強ができる科目があったのでなおさらだった。).

男性の傾向：女性優遇・男性卑下の傾向の指摘をしているものがみられた(例1：女性専用車両や映画のレディースデイなどは男性を卑下しすぎているのでは、と思った。例2：最近の女性への優遇は過剰で、男女平等も大事だが、それを逸脱したパフォーマンスになっていると思う。例3：昼間の時間で特定の飲食店などの店で実施している「女性限定のタイムセール」的なやつ。これは差別を感じずにはいられない。例4：男女の地位が平等であることは良いが、少々女性が優遇されすぎていると考える。例5：これらのトピックを逆手にとって女性が権利を主張しすぎるのは問題だと思います。ある程度女性は保護されるべきだと思いますが、男性の権利の侵害になり始めているような気がします。).

最後に、重要さ得点の大小の群分けを支持する回答があったことを報告する。重要さ得点に基づいた群分けで、中群と低群に分類されたケースのみが、性役割に対して興味・関心が薄いことを述べる回答(例1：自分がジェンダーの問題について、思ったよりも興味をしめしていないことに気がついた。例2：ジェンダーの問題に関しては興味がわからないと思った。例3：この問題に関して、あまり関心がもてなかった。)をしていた。重要さ因子の定義である「得点が高いほど性役割に関するテーマを自分にとって重要視しており、得点が低いほど性役割に関するテーマに関心が薄い」に一致する結果となった。

総合考察

●結果の概要

はじめに、本研究の結果の概要を示す。

①SESRA-S（平等主義的態度スケール短縮版）の尺度得点の男女別の平均値の比較を行ったところ、女性が有意に高い平均値をとっていたことから、対象とした大学生の内、女性の方が男性よりも、性役割に対して平等主義的な態度を示したことが明らかとなった。②サブクエスチョン 1 の合計値から 5 の合計値までの分析の結果から、サブクエスチョン 1、2、5 の合計値を合算したものを重要さ得点とした。また、重要さ得点、サブクエスチョン 3 の合計値、サブクエスチョン 4 の合計値をそれぞれ、男女別に平均値の比較を行ったところ、重要さ得点のみにおいて、女性が有意に高い平均値をとっていた。以上の結果から対象とした大学生の内、平均的に女性の方が男性よりも、性役割規範を重要であると評価する傾向にあり、平均的に男性の方が女性よりも、性役割規範に対して関心が薄いと評価する傾向があることが明らかとなった。③SESRA-S 尺度得点の大小と、サブクエスチョン 1、2、5 の合計値の合算値である重要さ得点の大小で群分けをした、3×3 の群に基づいてサンプルを群分けした所、サンプル内において、相対的に性役割に対して伝統主義的な態度を示した大学生は、性役割規範に対して比較的に関心が薄いと評価する傾向にあった。同様に、サンプル内において、相対的に性役割に対して、得点上伝統主義的な態度と平等主義的な態度の中間的な態度を示した大学生は、性役割規範の重要性を他の群に比べて中程度に評価する傾向にあり、相対的に性役割に対して平等主義的な態度を示した大学生は、性役割規範に対して比較的重要だと評価する傾向にあったことが明らかとなった。また、同様の群分けを男女別で行ったところ、男性の場合は全体で見られたような傾向は見られず、むしろ SESRA-S の尺度得点と、重要さ得点のとの間の関係性は薄い傾向が示唆され、その間の相関係数は有意な負の値（-.309）をとっていた。一方で女性の場合は、全体で見られた傾向がより強まっており、SESRA-S の尺度得点と、重要さ得点との間の関係性が高い傾向が示唆され、その間の相関係数は有意な正の値（.613）をとっていた。④自由記述の回答内容の概要は以下の通りであった。男女によって扱いが異なることに対して不満に思った経験の報告、性別役割分業についての否定的意見、男性・女性の両性の違いをポジティブであれネガティブであれ（部分的に）認める意見担についての回答があった。特に女性は、性役割に関する不満のエピソードに内容が具体的なものが多く、男性では、男性蔑視の傾向の指摘をしているものが見られた。

●変数ごとの考察

はじめに SESRA-S（平等主義的態度スケール短縮版）の結果についての考察を行う。鈴木（1994）の結果である、SESRA-S 尺度得点の男女別の平均値は男性 46.56、女性 53.99 であり、本研究での結果である、男性 51.61、女性 56.97 よりも低い値となっている。これ

は鈴木（1994）の仮説である、①女性は男性より SESRA-S の得点平均値が有意に高い、②年齢が高くなるほど SESRA-S の得点が低くなると一致した結果となっている。実際、検定の結果 SESRA-S 尺度得点の女性の平均値が、男性の平均値を統計的に有意に上回り、20代から 70 代以上を対象とした鈴木（1994）の調査とは異なり、本調査では平均年齢 19.23 歳の大学生のみを対象としていたことから、対象としたケースの年齢がより低かった。また、尺度得点の大小に基づき、ケースを 3 群に分けたものを、更に男女で分割してみると、男性の場合、尺度得点が高い群が少なく、尺度得点が高い群が多かった。一方女性の場合、尺度得点が高い群が多く、尺度得点の低い群が少なかった。この結果は、女性の尺度得点の平均値の方が高かった結果と一致している。

次にサブクエスチョン 1 から 5 の結果についての考察を行う。サブクエスチョンは以下の 5 つの質問があり、それぞれ①「この問題は私にとって重要だと思う。」（サブクエスチョン 1）、②「私はこの問題について、明確な意見を持っていると思う。」（サブクエスチョン 2）、③「私はこの問題に対する意見を、時と場合で変えると思う。」（サブクエスチョン 3）、④「この問題に対して、他の人が自分と異なる意見を持っていたとしてもいいと思う。」（サブクエスチョン 4）、⑤「私はこの問題に対して関心が薄いと思う。」（サブクエスチョン 5）である。これらは、伝統主義的か平等主義的という態度以外の性役割に対する意識を調査する為に、「性役割規範というテーマをどの程度重要視するかについて評価」、「性役割規範というテーマに関して示す、自身の意見の明確さの評価」、「性役割規範というテーマに関して示す、自身の意見の一貫性の程度の評価」、「性役割規範というテーマに関する、他者の異なる意見の許容の程度の評価」、「性役割規範というテーマに関する、自身の関心の強さの程度の評価」を調べることを意図したものであった。しかし各サブクエスチョンの合計値の相関係数、因子分析の結果から、サブクエスチョン 1、2、5 の得点を合算し、重要さ得点：「得点が高いほど性役割規範に関するテーマを自分にとって重要視しており、得点が高いほど性役割規範に関するテーマに関心が薄い」にまとめることとした。またそれ以外のサブクエスチョン 3、サブクエスチョン 4 の得点は独立したまま扱った為、サブクエスチョンでは合計 3 変数を扱ったことになる。それぞれの合計値の男女別平均値の比較を実施したところ、重要さ得点のみ、女性の平均値が有意に高い結果となり、それ以外の変数に有意な男女差は見られなかった。これらのことから、対象とした大学生の内、平均的に女性の方が男性よりも、性役割規範を重要であると評価する傾向にあり、平均的に男性の方が女性よりも、性役割規範に対して関心が薄いと評価する傾向があることが明らかとなった。一方で、「性役割規範に対して時と場合で意見を変えるかどうか」、に対する評価と、「性役割規範に関して、自分とは異なる他者の意見を許容できるかどうか」、に対する評価は男女差が見られなかった。また、SESRA-S の尺度得点と同様に、重要さ得点の大小に基づき、ケースを 3 群に分けたものを、更に男女で分割してみると、男性の場合、重要さ得点が高い群が少なく、重要さ得点が高い群が多かった。一方で女性の場合、重要さ得点の高い群が多く、重要さ得点の低い群が少なかった。この結果も、女性の重要さ得点の平均

値の方が高かった結果と一致している。

次に、SESRA-S の尺度得点と重要さ得点の大小に基づいた 3 群を掛け合わせ、 3×3 の群にケースを割り振った結果から、次の事が明らかとなった。サンプル内において、相対的に性役割に対して伝統主義的な態度を示した大学生は、性役割規範に対して比較的に関心が薄いと評価する傾向にあった。同様に、サンプル内において、相対的に性役割に対して、得点上伝統主義的な態度と平等主義的な態度の中間的な態度を示した大学生は、性役割規範の重要性を他の群に比べて中程度に評価する傾向にあり、相対的に性役割に対して平等主義的な態度を示した大学生は、性役割規範に対して比較的重要だと評価する傾向にあったことが明らかとなった。この群分けを男女別に施してみると、男性の場合は、全体で見られたような傾向は見られず、SESRA-S の尺度得点のいずれの群においても、重要さ得点の群のケースの割合が類似した傾向であったことから、SESRA-S の尺度得点と、重要さ得点のとの間の関係性は薄い傾向が示唆され、その間の相関係数は有意な負の値 (-.309) をとっていた。一方で、女性の場合は、全体で見られた傾向がより強まっており、SESRA-S の尺度得点と、重要さ得点との間の関係性が高い傾向が示唆され、その間の相関係数は有意な正の値 (.613) をとっていた。以上のことから、男性と女性では、性役割に対する態度としての平等主義的態度—伝統主義的態度の軸と、性役割に対する重要さ—関心の薄さの評価の軸の関連性が異なると考えられる。つまり、男性の場合では、性役割に対する態度としての平等主義的態度—伝統主義的態度の予測の為に、性役割に対する重要さ—関心の薄さという評価の軸を用いることはあまり適切ではないのに対して、女性の場合では、性役割に対する態度としての平等主義的態度—伝統主義的態度の予測の為に、性役割に対する重要さ—関心の薄さという評価の軸を用いることは適切であると考えられる。あえて指摘するのであれば、男性の場合 SESRA-S の尺度得点と、重要さ得点との間に弱いながら有意な負の相関が認められた為、男性の場合は性役割を重要だと思う程、性役割に対して伝統主義的な態度を示すことが考えられる。

最後に自由記述の回答内容についての考察を行う。①男女によって扱いが異なることに対して不満に思った経験の報告が複数見られた。女性による回答が多く見られたが、男性による回答も見られた。このことから、性役割に関して、不満を持つのは女性であり、男性は加害者であるという構図が主流であったが、男性内にも現在の性役割に対して不満を持つ男性がいることが示唆された。②性別役割分業についての否定的意見が複数見られた。全体の傾向として性別役割分業についての否定的意見が複数見られたことは、現在の大学生においては、比較的伝統主義的態度を示すとされる人であっても、性別役割分業に対して否定的意見を持っている可能性が示唆される。③男性・女性の両性の違いをポジティブであれネガティブであれ（部分的に）認める意見が複数見られた。特に生理・身体的特徴に基づく違いを強調したものが見られた。研究対象が大学生という、それまでの教育課程、その後の社会生活に比べ、性別による違いを設けられることの少ない過程にあった為、言及し易い生理・身体的特徴に言及した可能性が示唆される。次に男女別に回答を考察する

こととする。はじめに女性は、性役割に対する不満についてのエピソードが男性より具体的であったことから、女子大学生の方が男子大学生よりも性役割による不満体験を、より身近に経験しやすいか、もしくは性役割による不満を表現し易い状態にあると考えられる。後者に関しては、性役割による不満体験を公然と話しやすい風潮があること、そしてそれが認められやすい雰囲気があることや、それらを語る言葉が多く存在するからではないかと考えられる。また男性の特徴的な意見として、男性蔑視の傾向の指摘をしているものがあり、男女平等が行き過ぎてむしろ女性が優遇されすぎていると感じている意見が見られた。大学生・年齢平均およそ 20 歳という立場上、対象とした男子大学生の置かれている状況は、同年代の女性の置かれている状況よりも表面的には不利に見えるのかもしれないが、先に述べた様に、少なからず現在の男女の置かれている状況に不満を持つ男子大学生がいることが示唆される。

●まとめ

はじめに、本研究の抱える限界について述べる。本研究の研究協力者である質問紙への回答者が、都内の公立大学の大学生（主に 1, 2 年生）であることは、少なくとも次の点に注意しなければならない。1 つ目が単一の、公立の大学生のみで構成された集団であるということである。つまり、本研究が対象とした大学生は、現在の大学生をきちんと代表できていない可能性が非常に高いということである。2 つ目が、対象とした学年が主に 1 年生と 2 年生であったことである。3 年生、4 年生は就職活動等、大学の教育課程よりも往々にして男女の区分けがより日常的に用いられる社会に出ることを意識、ないし社会に出ることに臨むことで、性役割を不満に思う傾向がより強まる可能性が考えられる為、1 年生・2 年生とは系統的に異なった反応を示す可能性が考えられる。これらの仮説は本研究の結果からは検定することが出来ないが、今後の研究の可能性として、学年別の比較や、直面している、ないし直面したライフイベントごとに比較をすることで、より詳細に大学生の性役割の捉え方を明らかに出来るものと考えられる。3 つ目が、大学生という単一の教育課程、ないしライフステージしか対象にしていないことである。大学の教育課程の前の教育課程である、高校の教育課程に在籍している学生を対象にすることや、同じ青年期であっても大学の教育課程に在籍していない青年を対象にすること、もしくはそれ以上の年齢の多様なライフステージにいる人々を対象に研究し、比較をすることで、大学生における性役割の捉え方をより明確にすることが出来るものと考えられる。つまり本研究の大きな限界は、対象としたサンプルの均質性の為に、大学生という母集団に様々にありうる、生きている・生きられた状況の特殊性・具体性を考慮することができなかったことが挙げられる。繰り返しになるが、今後の研究の方向性の一つとして、個々の人間の生きている・生きられた状況の特殊性・具体性を考慮した形で比較・検討出来るような方法をとることが挙げられる。また、本研究で示した、規範としての性役割に対する「重要さ—関心の無さ」という次元は、性役割に対する平等主義的—伝統主義的態度以外の、規範としての性役割に対す

る意識の 1 つであると考えられるが、どうして重要なのか、どの様に重要なのか、もしくはどの様に・どの様な場面で重要にするのか、といった具体的な内容に踏み込めていない点で、非常に抽象度が高い所に限界があると考ええる。また、重要さの対象である性役割の内容が、SESRA-S（平等主義的態度スケール短縮版）の内容に強く引っ張られていることが考えられる為、規範としての性役割の中でも限定的な領域に対する重要さの評価である可能性が高い。したがって、より広範な規範としての性役割に関するテーマに対する重要さの評価を調査するか、あるいは、領域・テーマを限定するなどして、詳細な評価を調査することで、規範としての性役割に対する重要さの次元をより明らかにすることが出来るものと考えられる。

以上を踏まえて本研究において、大学生において、規範としての性役割に関して平等主義的—伝統主義的態度の次元とは異なる、どのような観点が性役割態度の研究に際して有効であるのか、またその観点が平等主義的—伝統主義的態度の次元と、どのような関連性があるのかについて、明らかにできたことを示す。平等主義的—伝統主義的態度という性役割態度に、「規範としての性役割に対する重要さの評価」という次元を掛け合わせる事で、研究の対象とした大学生の内、女性の場合性役割に対して平等主義的態度をもつ程、性役割を重要視しており、性役割に対して伝統主義的態度をもつ程、性役割に関心が薄いことが明らかとなった。一方で男性の場合は性役割に対する平等主義的—伝統主義的態度と性役割に対する重要さの評価は女性の場合程の関連性は無く、もしくは弱いながら逆の関連性を示したことが明らかとなった。これらの結果から、「規範としての性役割に対する重要さの評価」の観点は少なからず有効であることが示唆された。また性役割態度を研究するにあたり、性役割に対する平等主義的—伝統主義的態度以外の、規範としての性役割に対する意識に関して、「性役割が本人にとってどのような意味を持つか」に焦点を当てることも一定の意義があることが示唆された。

引用・参考文献

- 東清和 1990 青年期における性役割指向性の性差 社会心理学研究, 6, 23-32.
- 東清和・鈴木淳子 1991 性役割態度研究の展望 心理学研究, 62, 270-276.
- 林真一郎 2005 男性役割と感情制御 風間書房
- 堀田美保 2000 性役割に関する若者世代意見と親世代意見の分布認知 心理学研究, 70, 503-509.
- 福富護 1983 性の発達心理学 福村出版
- 伊藤裕子 1978a 性役割の評価に関する研究 教育心理学研究, 26, 1-11.
- 伊藤裕子 1981 女子青年の性役割意識の構造 教育心理学研究, 29, 84-87.
- 伊藤裕子・秋津慶子 1983 青年期における性役割観および性役割期待の認知 教育心理学研究, 31, 45-50.

- 伊藤裕子 1986 性役割特性語の意味構造——性役割測定尺度 (ISRS) 作成の試み——
教育心理学研究, 34, 168-174.
- 柏木恵子 1967 青年期における性役割の認知 青年心理学研究, 15, 193-202.
- 柏木恵子 1974 青年期における性役割の認知 (Ⅲ) ——女子学生青年を中心として——
教育心理学研究, 22, 1-11.
- 鈴木淳子 1987 フェミニズム・スケールの作成と信頼性・妥当性の検討 社会心理学研究, 2, 45-54.
- 鈴木淳子 1991 平等主義的性役割態度: SESRA (英語版) の信頼性と妥当性の検討および日米女性の比較 社会心理学研究, 6, 80-87.
- 鈴木淳子 1994a 平等主義的性役割態度スケール短縮版 (SESRA-S) の作成 心理学研究, 65, 34-41.
- 鈴木淳子 1994b 脱男性性スケール (SARLM) の作成 心理学研究, 64, 451-459.
- 鈴木淳子 1997 レクチャー「社会心理学」Ⅲ 性役割—比較文化の視点から— 垣内出版
- 宇井美代子・松井豊・福富護 2001 女子高生における性役割態度の変化過程 心理学研究, 72, 95-103.

<資料>

社会規範に対する意識調査のお願い

本調査は、大学生における社会規範に対する捉え方を調べるためのものです。また、本調査での回答は、プライバシーに配慮し、統計的に処理しますので、誰が回答したものが分からないように取り扱います。

本調査にご協力いただける場合は、初めにページ下部の年齢と性別の欄に答えてから、次のページに進み、注意事項を良く読み、質問に答えてください。また、この調査では正しい答えや誤った答えはありませんので、思ったままに答えてください。

研究者

首都大学東京 人文科学研究科 心理学教室 修士二年

阿部貴志

年齢 _____ 歳

性別 男性 ・ 女性 ・ その他か _____

※いずれかに○を付けてください

1. 経済的に不自由でなければ、女性は働かなくてもよい

●以上の文章について最も当てはまるものを選び、1～5の数字に○をつけてください。

まったくそのとおりだと思う	1
まあそう思う	2
どちらともいえない	3
あまりそう思わない	4
ぜんぜんそう思わない	5

… 5 4 3 2 1

●次に、今答えた文章についてどう思うか、最もあてはまるものを選び、1～4の数字に○をつけてください。

とてもそう思う	1
まあそう思う	2
あまりそう思わない	3
ほとんどそう思わない	4

この問題は私にとって重要だと思う。

… 4 3 2 1

私はこの問題について、明確な意見を持っていると思う。

… 4 3 2 1

私はこの問題に対する意見を、時と場合で変えると思う。

… 4 3 2 1

この問題に対して、他の人が自分と異なる意見を持っていたとしてもいいと思う。

… 4 3 2 1

私はこの問題に対して関心が薄いと思う。

… 4 3 2 1

2. 主婦が働くと夫をないがしろにしがちで、夫婦関係にひびが入

りやすい

●以上の文章について最も当てはまるものを選び、1～5の数字に○をつけてください。

まったくそのとおりだと思う	1
まあそう思う	2
どちらともいえない	3
あまりそう思わない	4
ぜんぜんそう思わない	5

… 5 4 3 2 1

●次に、今答えた文章についてどう思うか、最もあてはまるものを選び、1～4の数字に○をつけてください。

とてもそう思う	1
まあそう思う	2
あまりそう思わない	3
ほとんどそう思わない	4

この問題は私にとって重要だと思う。

… 4 3 2 1

私はこの問題について、明確な意見を持っていると思う。

… 4 3 2 1

私はこの問題に対する意見を、時と場合で変えると思う。

… 4 3 2 1

この問題に対して、他の人が自分と異なる意見を持っていたとしてもいいと思う。

… 4 3 2 1

私はこの問題に対して関心が薄いと思う。

… 4 3 2 1

3. 家事は男女の共同作業となるべきである

●以上の文章について最も当てはまるものを選び、1～5の数字に○をつけてください。

まったくそのとおりだと思う・
まあそう思う・
どちらともいえない・
あまりそう思わない・
ぜんぜんそう思わない・

… 5 4 3 2 1

●次に、今答えた文章についてどう思うか、最もあてはまるものを選び、1～4の数字に○をつけてください。

とてもそう思う・
まあそう思う・
あまりそう思わない・
ほとんどそう思わない・
ほとんどそう思わない・

この問題は私にとって重要だと思う。

… 4 3 2 1

私はこの問題について、明確な意見を持っていると思う。

… 4 3 2 1

私はこの問題に対する意見を、時と場合で変えると思う。

… 4 3 2 1

この問題に対して、他の人が自分と異なる意見を持っていたとしてもいいと思う。

… 4 3 2 1

私はこの問題に対して関心が薄いと思う。

… 4 3 2 1

4. 主婦が仕事を持つと、家族の負担が重くなるのでよくない

●以上の文章について最も当てはまるものを選び、1～5の数字に○をつけてください。

ま	あ	ど	ま	ま
つ	あ	ち	あ	ま
た	り	ら	そ	た
く	そ	と	う	く
そ	う	も	・	・
の	思	い	・	・
と	わ	え	・	・
お	な	な	・	・
り	い	い	・	・
だ	・	・	・	・
と	・	・	・	・
思	・	・	・	・
う	・	・	・	・

… 5 4 3 2 1

●次に、今答えた文章についてどう思うか、最もあてはまるものを選び、1～4の数字に○をつけてください。

と	あ	ま	と
て	あ	あ	と
も	り	そ	も
そ	そ	う	そ
う	う	思	う
・	・	う	・
・	・	・	・
・	・	・	・
・	・	・	・
・	・	・	・
・	・	・	・
・	・	・	・

この問題は私にとって重要だと思う。

… 4 3 2 1

私はこの問題について、明確な意見を持っていると思う。

… 4 3 2 1

私はこの問題に対する意見を、時と場合で変えると思う。

… 4 3 2 1

この問題に対して、他の人が自分と異なる意見を持っていたとしてもいいと思う。

… 4 3 2 1

私はこの問題に対して関心が薄いと思う。

… 4 3 2 1

5. 子育ては女性にとって一番大切なキャリアである

●以上の文章について最も当てはまるものを選び、1～5の数字に○をつけてください。

ま	あ	ど	ま	ま
っ	あ	ち	あ	っ
た	ら	ら	そ	た
く	と	も	う	く
そ	い	い	・	・
の	え	え	・	・
と	な	な	・	・
お	い	い	・	・
り	・	・	・	・
だ	・	・	・	・
と	・	・	・	・
思	・	・	・	・
う	・	・	・	・

… 5 4 3 2 1

●次に、今答えた文章についてどう思うか、最もあてはまるものを選び、1～4の数字に○をつけてください。

と	あ	あ	と
て	あ	あ	て
も	そ	そ	も
そ	う	う	そ
う	・	・	・
・	・	・	・
・	・	・	・
・	・	・	・
・	・	・	・
・	・	・	・
・	・	・	・

この問題は私にとって重要だと思う。

… 4 3 2 1

私はこの問題について、明確な意見を持っていると思う。

… 4 3 2 1

私はこの問題に対する意見を、時と場合で変えると思う。

… 4 3 2 1

この問題に対して、他の人が自分と異なる意見を持っていたとしてもいいと思う。

… 4 3 2 1

私はこの問題に対して関心が薄いと思う。

… 4 3 2 1

6. 女性の人生において、妻であり母であることも大事だが、仕事 をすることもそれと同じぐらい重要である

●以上の文章について最も当てはまるものを選び、1～5の数字に○をつけてください。

まったくそのとおりだと思う	まあそう思う	どちらともいえない	あまりそう思わない	ぜんぜんそう思わない
・	・	・	・	・
・	・	・	・	・
・	・	・	・	・

… 5 4 3 2 1

●次に、今答えた文章についてどう思うか、最もあてはまるものを選び、1～4の数字に○をつけてください。

とてもそう思う	まあそう思う	あまりそう思わない	ほとんどそう思わない
・	・	・	・
・	・	・	・
・	・	・	・
・	・	・	・

この問題は私にとって重要だと思う。

… 4 3 2 1

私はこの問題について、明確な意見を持っていると思う。

… 4 3 2 1

私はこの問題に対する意見を、時と場合で変えると思う。

… 4 3 2 1

この問題に対して、他の人が自分と異なる意見を持っていたとしてもいいと思う。

… 4 3 2 1

私はこの問題に対して関心が薄いと思う。

… 4 3 2 1

7. 娘は将来主婦に、息子は職業人になることを想定して育てるべ

きである

●以上の文章について最も当てはまるものを選び、1～5の数字に○をつけてください。

まったくそのとおりだと思う
まあそう思う・・・
どちらともいえない・・・
あまりそう思わない・・・
ぜんぜんそう思わない・・・

… 5 4 3 2 1

●次に、今答えた文章についてどう思うか、最もあてはまるものを選び、1～4の数字に○をつけてください。

とてもそう思う・・・
まあそう思う・・・
あまりそう思わない・・・
ほとんどそう思わない・・・
・・・

この問題は私にとって重要だと思う。

… 4 3 2 1

私はこの問題について、明確な意見を持っていると思う。

… 4 3 2 1

私はこの問題に対する意見を、時と場合で変えると思う。

… 4 3 2 1

この問題に対して、他の人が自分と異なる意見を持っていたとしてもいいと思う。

… 4 3 2 1

私はこの問題に対して関心が薄いと思う。

… 4 3 2 1

8. 女性は家事や育児をしなければならないから、フルタイムで働

くよりパートタイムで働いた方がよい

●以上の文章について最も当てはまるものを選び、1～5の数字に○をつけてください。

まったくそのとおりだと思う
まあそう思う・・・
どちらともいえない・・・
あまりそう思わない・・・
ぜんぜんそう思わない・・・

… 5 4 3 2 1

●次に、今答えた文章についてどう思うか、最もあてはまるものを選び、1～4の数字に○をつけてください。

とてもそう思う・・・
まあそう思う・・・
あまりそう思わない・・・
ほとんどそう思わない・・・
・・・

この問題は私にとって重要だと思う。

… 4 3 2 1

私はこの問題について、明確な意見を持っていると思う。

… 4 3 2 1

私はこの問題に対する意見を、時と場合で変えると思う。

… 4 3 2 1

この問題に対して、他の人が自分と異なる意見を持っていたとしてもいいと思う。

… 4 3 2 1

私はこの問題に対して関心が薄いと思う。

… 4 3 2 1

9. 結婚生活の重要事項は夫が決めるべきである

●以上の文章について最も当てはまるものを選び、1～5の数字に○をつけてください。

まったくそのとおりだと思う・	まあそう思う・	どちらともいえない・	あまりそう思わない・	ぜんぜんそう思わない・
・	・	・	・	・
・	・	・	・	・
・	・	・	・	・

… 5 4 3 2 1

●次に、今答えた文章についてどう思うか、最もあてはまるものを選び、1～4の数字に○をつけてください。

とてもそう思う・	まあそう思う・	あまりそう思わない・	ほとんどそう思わない・
・	・	・	・
・	・	・	・
・	・	・	・

この問題は私にとって重要だと思う。

… 4 3 2 1

私はこの問題について、明確な意見を持っていると思う。

… 4 3 2 1

私はこの問題に対する意見を、時と場合で変えると思う。

… 4 3 2 1

この問題に対して、他の人が自分と異なる意見を持っていたとしてもいいと思う。

… 4 3 2 1

私はこの問題に対して関心が薄いと思う。

… 4 3 2 1

10. 結婚後、妻は必ずしも夫の姓を名乗る必要はなく、旧姓で通

してもよい

●以上の文章について最も当てはまるものを選び、1～5の数字に○をつけてください。

まったくそのとおりだと思う	1
まあそう思う	2
どちらともいえない	3
あまりそう思わない	4
ぜんぜんそう思わない	5

… 5 4 3 2 1

●次に、今答えた文章についてどう思うか、最もあてはまるものを選び、1～4の数字に○をつけてください。

とてもそう思う	1
まあそう思う	2
あまりそう思わない	3
ほとんどそう思わない	4

… 4 3 2 1

この問題は私にとって重要だと思う。

私はこの問題について、明確な意見を持っていると思う。

… 4 3 2 1

私はこの問題に対する意見を、時と場合で変えると思う。

… 4 3 2 1

この問題に対して、他の人が自分と異なる意見を持っていたとしてもいいと思う。

… 4 3 2 1

私はこの問題に対して関心が薄いと思う。

… 4 3 2 1

1 1. 女性が社会的地位や賃金の高い職業を持つと結婚するのが むずかしくなるから、そういう職業を持たない方がよい

●以上の文章について最も当てはまるものを選び、1～5の数字に○をつけてください。

まったくそのとおりだと思う
まあそう思う・・・
どちらともいえない・・・
あまりそう思わない・・・
ぜんぜんそう思わない・・・

… 5 4 3 2 1

●次に、今答えた文章についてどう思うか、最もあてはまるものを選び、1～4の数字に○をつけてください。

とてもそう思う・・・
まあそう思う・・・
あまりそう思わない・・・
ほとんどそう思わない・・・
・・・

この問題は私にとって重要だと思う。

… 4 3 2 1

私はこの問題について、明確な意見を持っていると思う。

… 4 3 2 1

私はこの問題に対する意見を、時と場合で変えると思う。

… 4 3 2 1

この問題に対して、他の人が自分と異なる意見を持っていたとしてもいいと思う。

… 4 3 2 1

私はこの問題に対して関心が薄いと思う。

… 4 3 2 1

12. 女性は家事や育児をしなければならないから、あまり責任の 重い、競争の激しい仕事をしないほうがよい

●以上の文章について最も当てはまるものを選び、1～5の数字に○をつけてください。

まったくそのとおりだと思う
まあそう思う・・・
どちらともいえない・・・
あまりそう思わない・・・
ぜんぜんそう思わない・・・

… 5 4 3 2 1

●次に、今答えた文章についてどう思うか、最もあてはまるものを選び、1～4の数字に○をつけてください。

とてもそう思う・・・
まあそう思う・・・
あまりそう思わない・・・
ほとんどそう思わない・・・
・・・

この問題は私にとって重要だと思う。

… 4 3 2 1

私はこの問題について、明確な意見を持っていると思う。

… 4 3 2 1

私はこの問題に対する意見を、時と場合で変えると思う。

… 4 3 2 1

この問題に対して、他の人が自分と異なる意見を持っていたとしてもいいと思う。

… 4 3 2 1

私はこの問題に対して関心が薄いと思う。

… 4 3 2 1

13. 女性の居るべき場所は家庭であり、男性の居るべき場所は職

場である

●以上の文章について最も当てはまるものを選び、1～5の数字に○をつけてください。

まったくそのとおりだと思う	1
まあそう思う	2
どちらともいえない	3
あまりそう思わない	4
ぜんぜんそう思わない	5

… 5 4 3 2 1

●次に、今答えた文章についてどう思うか、最もあてはまるものを選び、1～4の数字に○をつけてください。

とてもそう思う	1
まあそう思う	2
あまりそう思わない	3
ほとんどそう思わない	4

… 4 3 2 1

この問題は私にとって重要だと思う。

私はこの問題について、明確な意見を持っていると思う。

… 4 3 2 1

私はこの問題に対する意見を、時と場合で変えると思う。

… 4 3 2 1

この問題に対して、他の人が自分と異なる意見を持っていたとしてもいいと思う。

… 4 3 2 1

私はこの問題に対して関心が薄いと思う。

… 4 3 2 1

14. 女性は子どもが生まれても、仕事を続けたほうがよい

●以上の文章について最も当てはまるものを選び、1～5の数字に○をつけてください。

まったくそのとおりだと思う	まあそう思う	どちらともいえない	あまりそう思わない	ぜんぜんそう思わない
・	・	・	・	・
・	・	・	・	・
・	・	・	・	・
・	・	・	・	・

… 5 4 3 2 1

●次に、今答えた文章についてどう思うか、最もあてはまるものを選び、1～4の数字に○をつけてください。

とてもそう思う	まあそう思う	あまりそう思わない	ほとんどそう思わない
・	・	・	・
・	・	・	・
・	・	・	・
・	・	・	・

この問題は私にとって重要だと思う。

… 4 3 2 1

私はこの問題について、明確な意見を持っていると思う。

… 4 3 2 1

私はこの問題に対する意見を、時と場合で変えると思う。

… 4 3 2 1

この問題に対して、他の人が自分と異なる意見を持っていたとしてもいいと思う。

… 4 3 2 1

私はこの問題に対して関心が薄いと思う。

… 4 3 2 1

15. 男の子は男らしく、女の子は女らしく育てることが非常に大

切である

●以上の文章について最も当てはまるものを選び、1～5の数字に○をつけてください。

まったくそのとおりだと思う	1
まあそう思う	2
どちらともいえない	3
あまりそう思わない	4
ぜんぜんそう思わない	5

●次に、今答えた文章についてどう思うか、最もあてはまるものを選び、1～4の数字に○をつけてください。

とてもそう思う	1
まあそう思う	2
あまりそう思わない	3
ほとんどそう思わない	4

この問題は私にとって重要だと思う。

私はこの問題について、明確な意見を持っていると思う。

私はこの問題に対する意見を、時と場合で変えると思う。

この問題に対して、他の人が自分と異なる意見を持っていたとしてもいいと思う。

私はこの問題に対して関心が薄いと思う。

●次からの質問への回答は、質問文の下にある空欄に思った事を自由に、できるだけ記入してください。

1、男女の扱いの違いに不満を感じたこと、引がかかったことについて、具体的なエピソードを書いてください。また、なぜそう思ったのか、その時どう思ったのかについても書いてください。

--

2、以下のトピックについての意見、もしくは男女の平等にかかわることについての意見を書いてください。

(男女雇用機会均等法、女性専用車両、男女による役割の分担、など)

--

3、本調査に回答をしてみて、思ったこと、感じた事について書いてください。

--

調査は以上です。ご協力ありがとうございました。